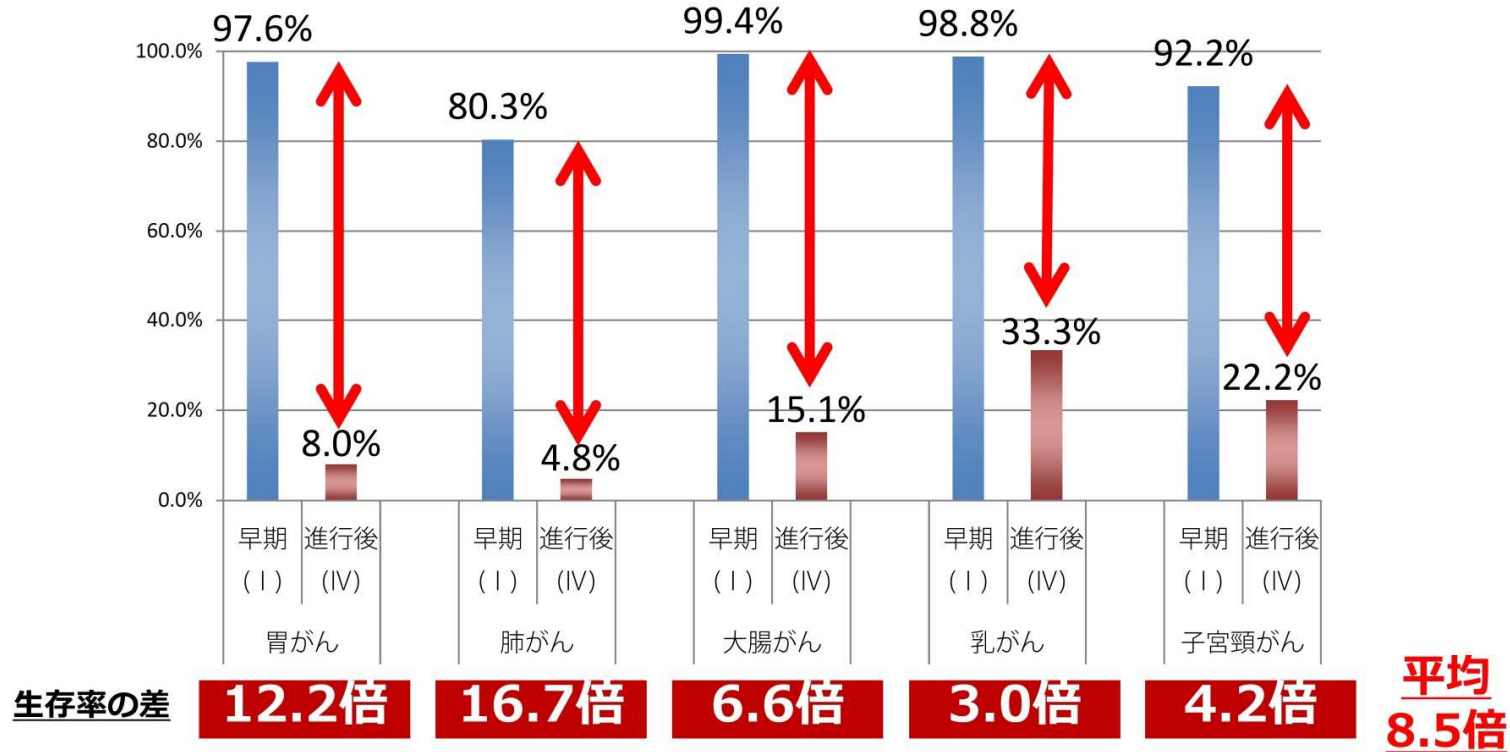


早期発見と進行後発見の場合の生存率の差



罹患してしまった場合、早期の発見が大切

注1：早期発見時の5年相対生存率と進行後発見時の5年相対生存率の比較

注2：早期をステージI（がんの浸潤が固有筋層にとどまるもの、また領域リンパ節転移が1~2個にとどまるもの）における発見、進行後をステージIV（がんの浸潤が直接他臓器まで及ぶもの、また領域リンパ節転移が7個以上となるもの）における発見として計算（出典：国立がん研究センターがん対策情報センター）

注3：5年相対生存率とは、あるがんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかが表す。

（出典：がんの統計'11 全国がん（成人病）センター協議会加盟施設における5年生存率（1999~2003年診断症例））